

# 市原市における 交通空白地域対策について

～地域住民との協働による取り組み～



# 市原市の地勢



- 人口：279,127人  
(平成28年10月1日現在)
- 面積：368.17 km<sup>2</sup>
- 観光客約351万人  
⇒golfer約168万人  
(平成27年)



臨海部コンビナート群



南部地方

33コースのゴルフ場



# 市原市の公共交通の状況

## <地域別の状況>

### ○北部・臨海部

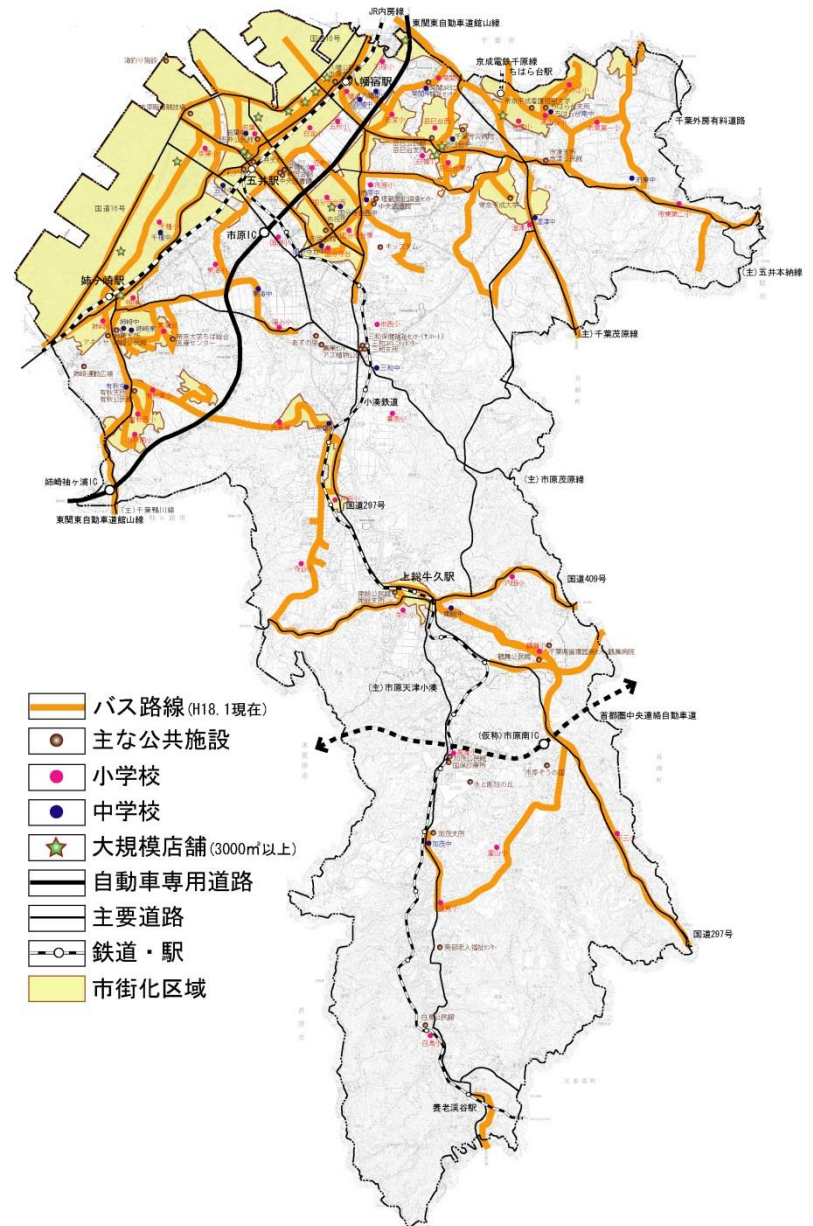
- ・ J R 鉄道駅（3 駅）を中心に路線バス、道路網が比較的充実

### ○南部・内陸部

- ・ 単線のローカル鉄道（小湊鉄道）が運行しているほか、主要道路のみを路線バスが運行

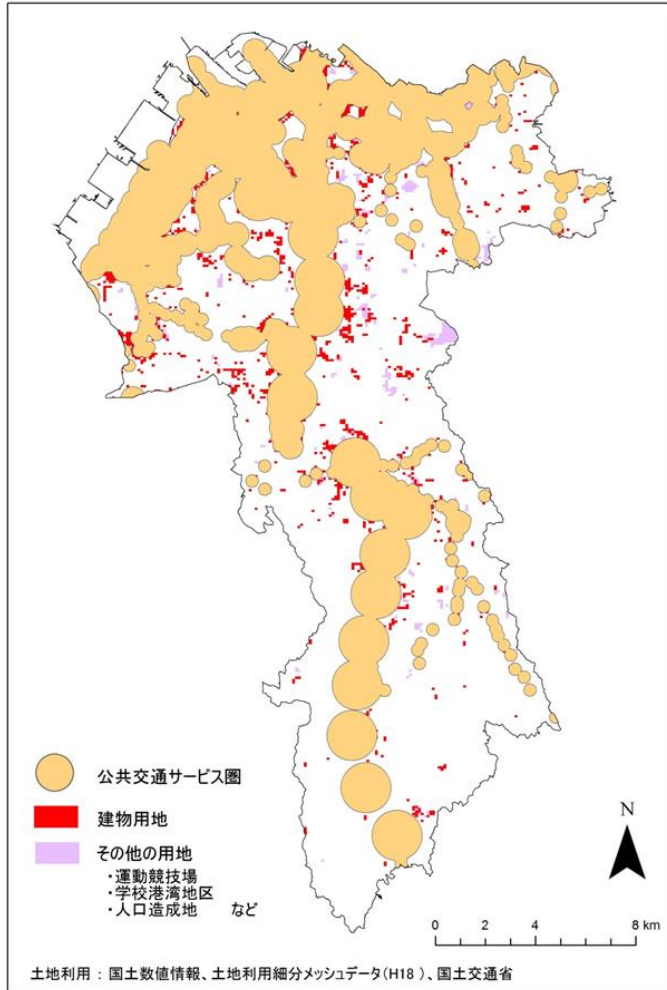
## <高速バスのアクセス>

- ・ 横浜・羽田方面
- ・ 新宿・八重洲方面
- ・ 成田方面

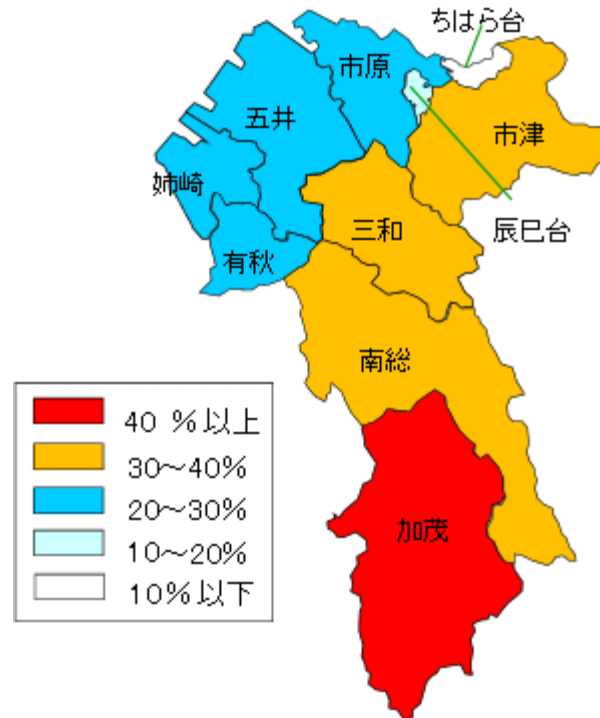


# 公共交通空白地域と高齢化の状況

<市原市の公共交通サービス圏>



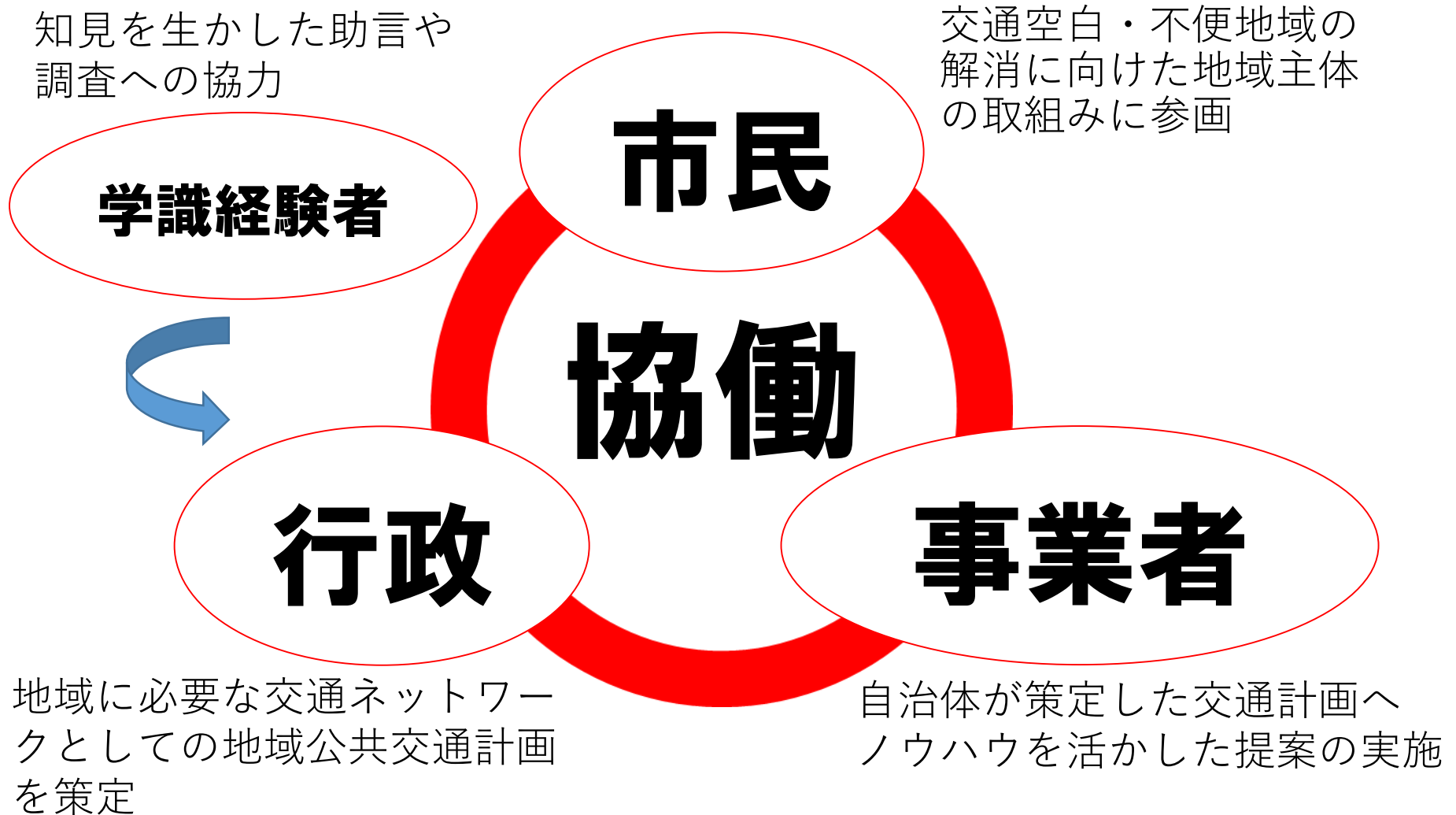
<市原市の地区別高齢化率>



平成28年4月1日現在		
地区名	人口(人)	高齢化率(%)
市原地区	52,402	29.9
五井地区	87,582	22.1
姉崎地区	29,872	28.2
有秋地区	14,638	25.9
市津地区	13,853	37.2
三和地区	14,761	35.8
南総地区	23,956	35.9
加茂地区	5,459	45.3
辰巳台	12,038	16.4
ちはら台	24,835	10.7
市原市計	279,396	26.3

※市原市における交通空白地域とは、鉄道駅から1km圏外かつバス停留所から500m圏外の建物用地

# 市原市の交通政策の基本的な考え方



# 公共交通空白・不便地域の解消に向けた市の基本方針

## <方針>

市民との協働による取組を原則に、  
行政直営の交通は走らせず、  
地域住民主体の交通に 経済的・人的な支援をする

## <理由>

「地域の交通は、その状況を一番よく知る地域住民自身に考えていただくことが、持続可能な公共交通の実現に資する」と考えているため

## <支援内容>

- ①「地域にバスを走らせたい」という熱意を持った住民が勉強会等を立ち上げ、検討を行なえるように支援
- ②地域住民が主体となって運行を開始したコミバス等について、運行にかかる経費の一部を支援

# 市原市の支援制度①

## 公共交通空白・不便地域において、地域で設立した住民主体の運営協議会を市がサポートする制度を構築

### ✓ 既存交通の確保維持を優先

- ・ 既存交通を有効活用し、地域の特性を考慮したフィーダー交通としての交通形態を組み合わせ

### ✓ 費用負担の明確化

- ・ 市の補助を運行経費の 1 / 2 を上限とし、不足分は地域が負担

### ✓ 住民主体を明確化

- ・ 地域の新たな交通の担い手となる構成員は住民のみ  
⇒ 行政職員・交通事業者・学識経験者はアドバイザー
- ・ 当事者意識の醸成  
⇒ 1 世帯当りの負担金や登録料の徴収・寄付や賛助金の獲得

# 市原市の支援制度②

## < 財政的支援 >

項目		内容	補助金額
導入・利用 促進支援	新たな交通の導入に関して	交通空白地域において、地域に最も適した公共交通を導入するために、調査・研究を行なう地域団体に対して、事務経費等を補助するとともに、会議等へ職員を派遣する。	10万円／年を上限とする。 (実証運行中は15万円)
	路線バスの利用促進に関して	地域の路線バスを維持確保するため、バス事業者と共に利用促進を図る地域団体に対して、事務経費等を補助するとともに、会議等へ職員を派遣する。	10万円／年を上限とする。
コミュニティバス等運行支援		地域団体が運営主体となり運行を開始したコミュニティバス等について、経費の一部を補助するとともに、会議等へ職員を派遣する。	以下のいずれか少ない方 ①運行経費の1/2の額 ②運行赤字額 (ただし事務経費は10万円を上限として全額補助)

## < 人的支援 >

- ① 運営会議への参加
- ② 学識経験者による研修会の開催



協議会への助言



講演



# 交通空白地域への新たな公共交通の導入

## コミュニティバス 「あおばす」

○青葉台コミュニティバス  
運営協議会



## デマンドタクシー 「ようろう号」

○養老地区デマンド型乗合  
タクシー運営委員会



## デマンドタクシー 「デマンド戸田」

○戸田地区デマンドタクシー  
運営協議会







## コミュニティバス「コスモス南総」

○南総西コミュニティバス運営委員会



- バス路線 (H18.1現在)
- 主な公共施設
- 小学校
- 中学校
- 大規模店舗 (3000)
- 自動車専用道路
- 主要道路
- 鉄道・駅
- 市街化区域

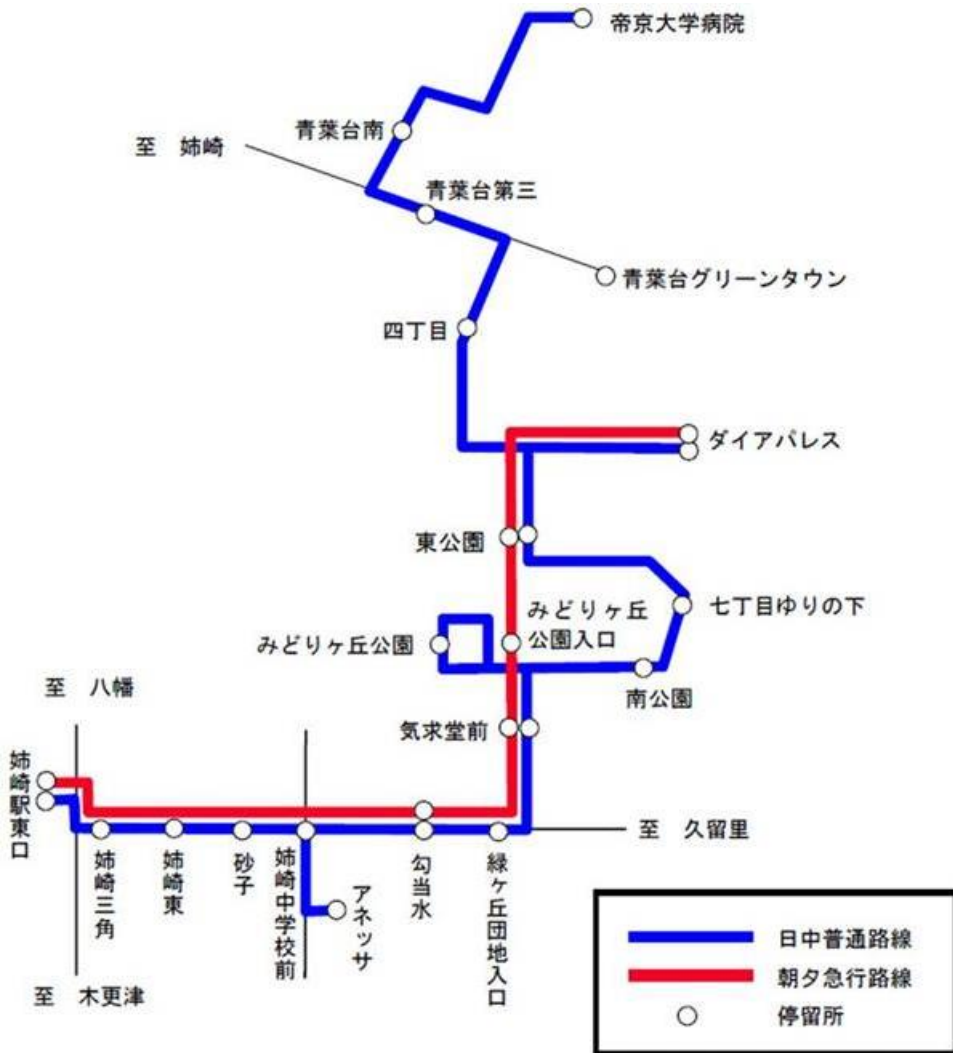
# 運営協議会の状況

項目		構成員	会議開催	会議の様子
コミュニ ティバス	あおばす	関係 3 町会から選出された委員（地域住民） 11 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2ヶ月に 1 回</li> <li>・ 主に土曜の午後開催</li> </ul>	
	コスモス南 総	関係 9 町会から選出された委員等（地域住民） 32 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月 1 回</li> <li>・ 主に日曜の午前開催</li> </ul>	
デマンドタ クシー	戸田地区	関係 18 町会の町会長を中心に地域住民 29 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月 1 回</li> <li>・ 主に土曜の夜開催</li> </ul>	
	養老地区	関係 10 町会から選任された委員等（地域住民） 23 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月 1 回</li> <li>・ 主に平日の夜開催</li> </ul>	

# 「あおばす」について①

## < 路線図 >

(平成27年4月現在)



## < 概要 >

(平成27年4月現在)

運行地区	青葉台地区		
運行距離	急行	2.6km(片道)	
	普通	6.2km(片道)	
運行便数	平日	上り22便	下り20便
	土曜	上り15便	下り15便
運行時間帯	平日	6:05 ~ 23:25	
	土曜	7:05 ~ 20:00	
車両	小型バス (路線バス仕様: 32人乗り)		
運賃	路線バスに準じる (大人100円~210円)		
運行開始日	平成17年11月1日		
運行主体	青葉台コミュニティバス運営協議会		

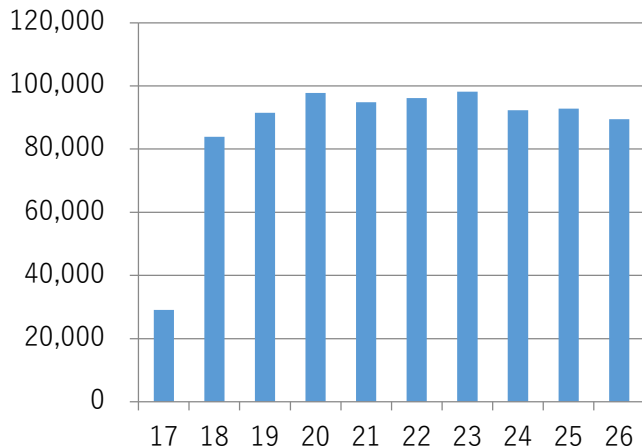


あおばす

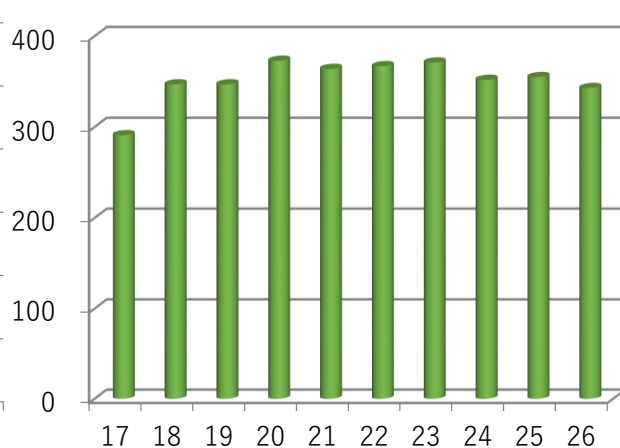
# 「あおばす」について②

## <利用状況の推移>

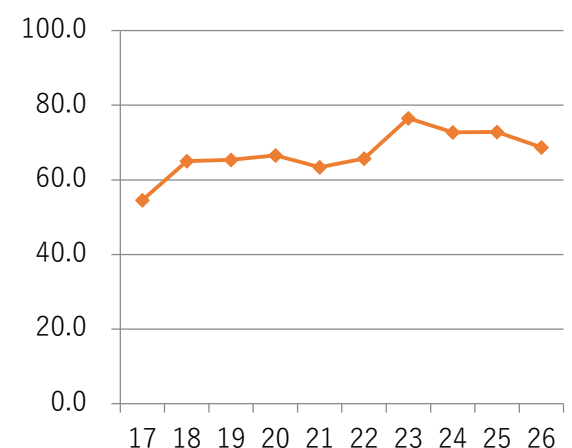
年間乗客数（人）



1日当りの乗客数（人）



収支率（%）



項目	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
年間乗客数（人）	29,092	83,862	91,468	97,761	94,868	96,173	98,137	92,324	92,805	89,482
1日当りの乗客数（人）	291	347	347	373	364	367	371	352	355	343
収支率（%）	54.6	65.0	65.4	66.6	63.4	65.7	76.5	72.7	72.8	68.7

6ヶ月

※乗客数の伸びに対して、収支率の上昇幅が大きい理由

事業者が調達したバス車両の購入経費の減価償却が、当初の5年間で行われ、6年目以降の委託料が減額となったため



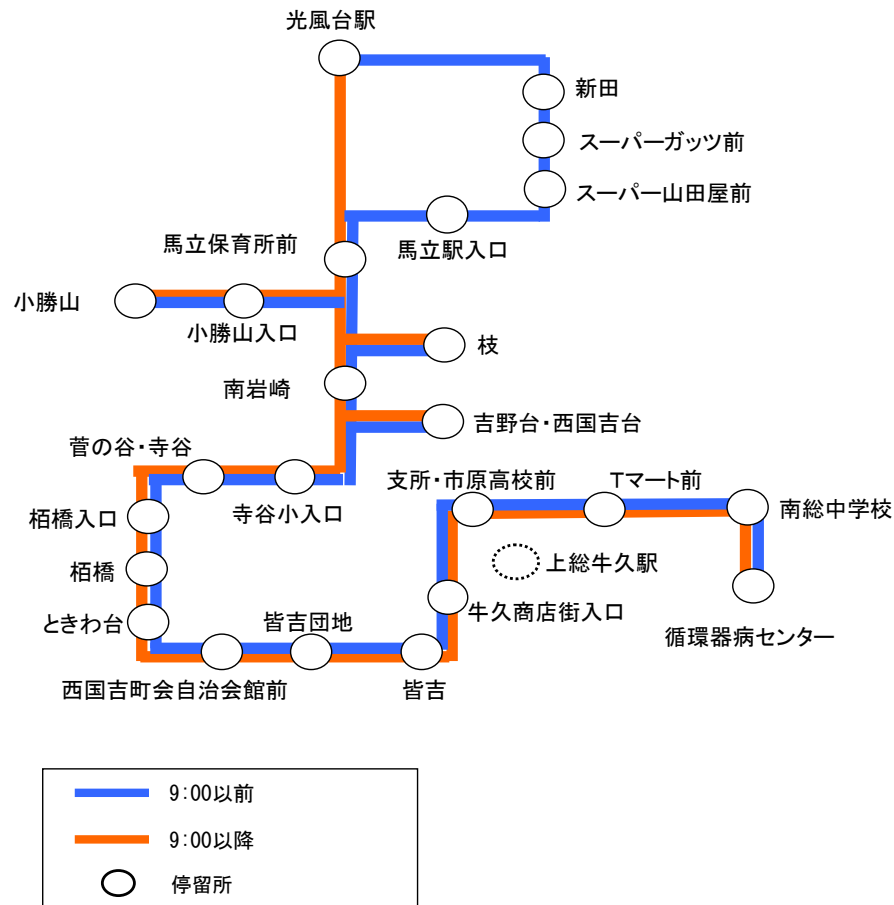
# 「あおばす」について③

## < 運営状況 >

項目	平成27年度実績
沿線人口	青葉台6丁目：950人 青葉台7丁目：1,330人 青葉台ダイアパレス：1,020人 計3,300人
運営主体	青葉台コミュニティバス運営協議会 11名（関係3町からの推薦者）
運行経路	姉ヶ崎駅～青葉台団地～帝京大学病院 距離：6.3km（最長）
1日当り運行委託費	（平日）65,220円 （土曜）39,220円
運賃	100～220円
運行曜日 （運行本数）	平日・土曜日 平日 上り21便、下り17便 土曜 上り15便、下り13便 （祝日、年末年始は運休）
年間運行日数	294日
年間乗車人数	86,941人
運賃収入	11,631,934円
運行委託費	17,905,804円
市原市補助	6,368,069円（内、100,000円は事務費）
収支率	65.0%
地元負担額	0円
1日当り平均乗車人数	295.7人/日

# 「コスモス南総」について①

## < 路線図 >



## < 概要 >

(平成27年4月現在)

運行地区	南総西地区		
運行距離	17.10～25.08km		
運行便数	平日	上り5便	下り5便
	土・日曜	－	－
運行時間帯	平日	6:45	～ 18:25
	土・日曜	－	－
車両	小型バス（路線バス仕様：36人乗り）		
運賃	路線バスに準じる（大人170円～280円）		
運行開始日	平成20年1月15日		
運行主体	南総西コミュニティバス運営委員会		

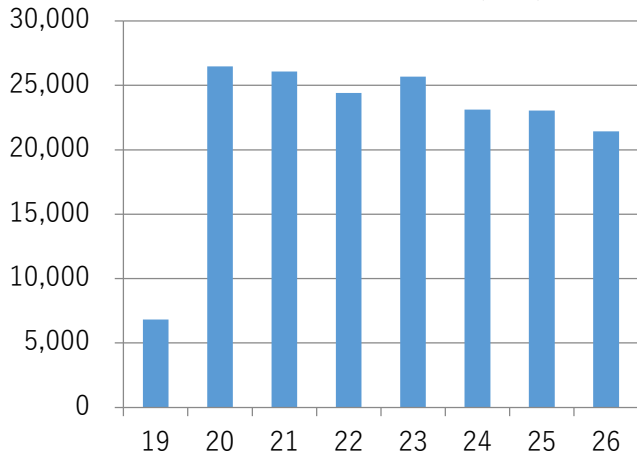


コスモス南総

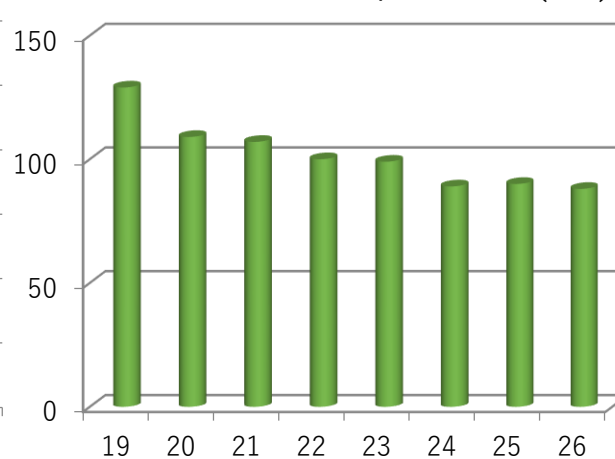
# 「コスモス南総」について②

## <利用状況の推移>

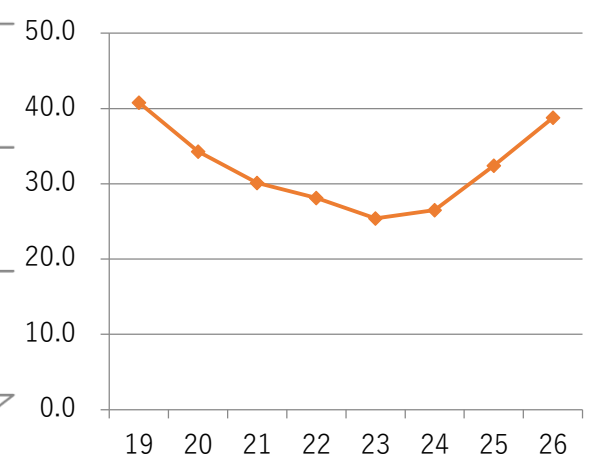
年間乗客数（人）



1日当りの乗客数（人）



収支率（%）



項目	19	20	21	22	23	24	25	26
年間乗客数（人）	6,820	26,484	26,084	24,411	25,670	23,135	23,048	21,437
1日当りの乗客数（人）	129	109	107	100	99	89	90	88
収支率（%）	40.8	34.3	30.1	28.1	25.4	26.5	32.4	38.8

3ヶ月

※乗客数の伸びに対して、収支率の上昇幅が大きい理由

事業者が調達したバス車両の購入経費の減価償却が、当初の5年間で行われ、6年目以降の委託料が減額となったため

# 「コスモス南総」について③

## < 運営状況 >

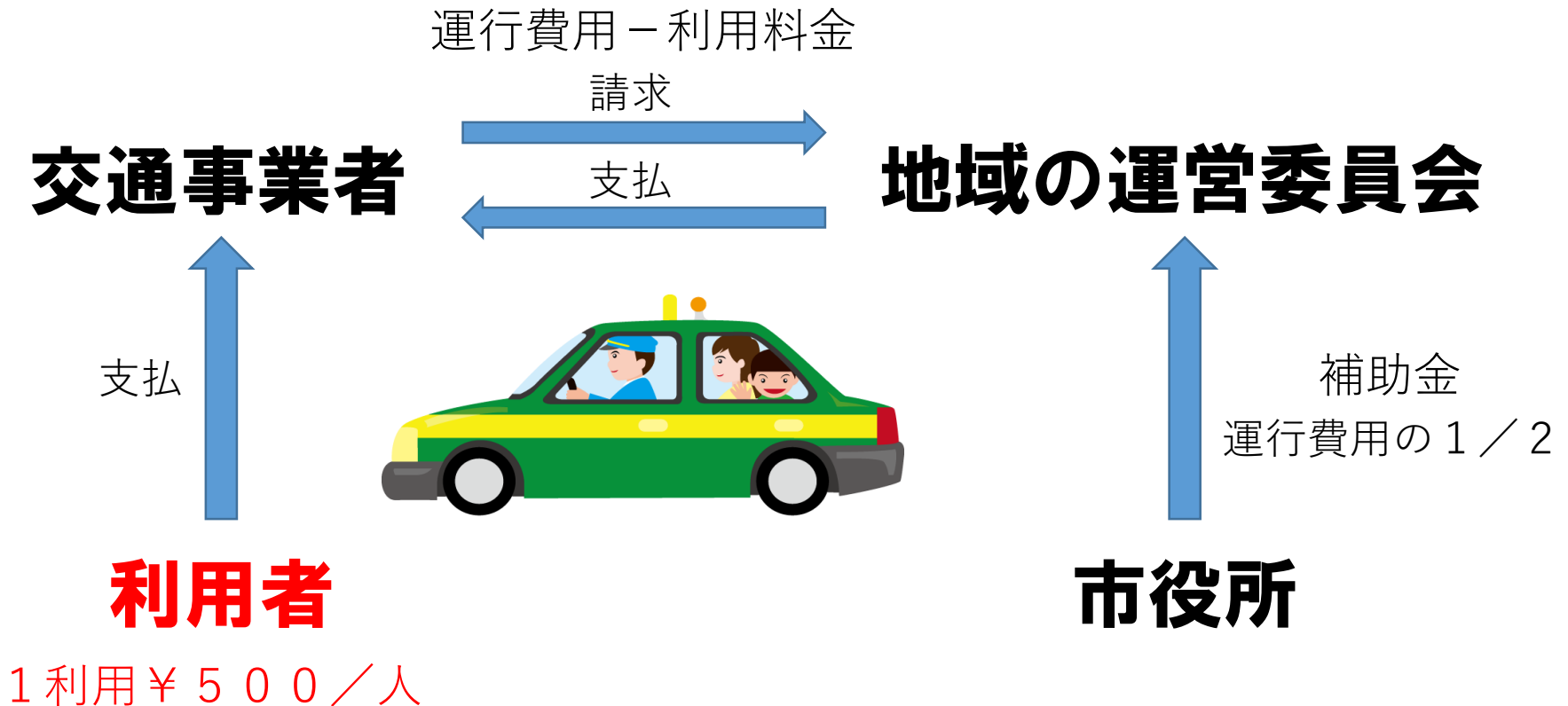
項目	平成27年度実績
沿線人口	約1,600世帯 約3,700人
運営主体	南総西コミュニティバス運営委員会 32名 (関係9町からの推薦者+委員会からの推薦者)
運行経路	光風台駅～各団地等(小勝山団地他)～牛久～県立循環器病センター距離:23.3km(最長)
1日当り運行委託費	(平日)46,980円
運賃	170～280円
運行曜日 (運行本数)	平日
	平日 上り5便、下り5便 (祝日、お盆・年末年始は運休)
年間運行日数	241日
年間乗車人数	21,238人
運賃収入	3,793,553円
運行委託費	11,322,180円
市原市補助	5,761,090円 (内、100,000円は事務費)
収支率	33.5%
地元負担額	1,900,761円
1日当り平均乗車人数	88.1人/日



# デマンドタクシーについて①

<市原市における費用負担の仕組み>

**1回の運行費用 ¥2000**



# デマンドタクシーについて②

## < 運営状況 >

項目	平成27年度実績	
	「デマンド戸田」 (戸田地区)	「よろろう号」 (養老地区)
運営主体	戸田地区デマンドタクシー運営協議会 29名 (関係町会長+協議会からの推薦者+顧問1名)	養老地区デマンド型乗合タクシー運営委員会 23名 (関係8町会長及び各町会からの推薦者+顧問3名)
地区人口	約3,300人 (約1,300世帯)	約3,300人 (約1,300世帯)
運行範囲	戸田地区の各自宅～光風台駅、国道297号線、 馬立駅周辺的生活関連施設 距離：南北約2.5km、西東約2.5km 面積：約700ha	養老地区の各自宅～三又駅、山田駅、光風台駅周辺の 生活関連施設 距離：南北約5km、西東約6km 面積：約2,200ha
1運行委託費	2,380円	2,060円
1人当り運賃	500円	520円
運行曜日 (運行本数)	毎週 月・木曜日 上り4便、下り4便 (祝日、お盆・年末年始は運休)	毎週 火・金曜日 上り4便、下り4便 (祝日、お盆・年末年始は運休)
登録世帯数 (人数)	56世帯 (102人)	97世帯 (220人)
年間乗車人数	149人	444人
年間運行回数	104回	295回
運行委託費	247,520円	607,700円
運賃収入	74,500円	230,880円
市原市補助	213,686円 (内、89,926円は事務費)	403,698円 (内、99,848円は事務費)
収支率	30.1%	38.0%
地元負担額	49,260円	72,970円
1運行当り平均乗車人数	1.43人/運行	1.51人/運行

# デマンドタクシーについて③

## <事前アンケートによるニーズと実態との対比>

地区	事前アンケート結果		実 態			
	利用する	内、すぐにでも利用する	H26年度末登録者数	H26年度末利用した方	現在（H27.9）の登録者数	現在までに利用した方
戸田地区	218名	21名	100名	20名	102名	24名
養老地区	266名	148名	209名	38名	215名	43名

## <運営協議会の取組み>

### ✓定期的に運営会議を開催

- ・運行状況・収支状況を検証⇒運行改善

### ✓利用促進に向けた周知活動等

- ①地域住民を対象にした説明会
- ②地元の小中学校にステッカーデザインを依頼
- ③利用案内リーフレットを全戸配布
- ④利用者、未利用者への事後アンケート調査
- ⑤広報紙の発行 等

# 地域公共交通を支える協働のあり方①

## <地域関係者の役割分担>

### ✓行政

- ・「黒子」として、データ提供、助言、交通事業者・学識経験者との橋渡し等を実施

### ✓交通事業者

- ・デマンド交通の運行委託費について、実運行回数に応じた費用とすることを承諾し、運行委託費の大幅な抑制に地域貢献として協力

### ✓地元企業・商店

- ・広告掲載やバス停命名権による協賛金寄付により支援

### ✓学識経験者

- ・全国の事例紹介や有用な助言を得るとともに、大学生の研究テーマとして扱ってもらうことで、運行改善に繋がる議論へ参加



## 地域公共交通を支える協働のあり方②

<地域公共交通を支える3本の矢>

- ① **地域住民**の熱い思いと継続的な努力
- ② **交通事業者**の協力（地域貢献）
- ③ **行政**によるコーディネート



- ✓ 徹底した議論 ⇒ 合意形成
- ✓ 人材の確保 ⇒ 地域主体の運営
- ✓ 創意工夫 ⇒ 維持確保

**“三者協働による成果”**